

横芝の碑

(その七十五)

幻の寺院、

古川村阿弥陀堂の経塔

時々ご紹介し上げている古川の鈴木昇さんの墓碑などの集祭所に一基の経塔が建っています。高さ二メートル余りの灯籠型の立派なもので、毀損も余りなくて真新しくさえ感じます。しかし刻まれている文字を見ますと、寛保三年(一、七四三)今から約二四〇年前の建立というので驚きます。

経塔には

礼拝供養十億 却生死重罪一時 濟滅生兌 殃死、生仏家若有庇 頓、阿鼻地獄若於比、...

補処元正 生塔施主、上総国武射郡横芝邑古川村阿国新田長倉村八田新田宮川村橋本、遠近男女為同入仏塔、

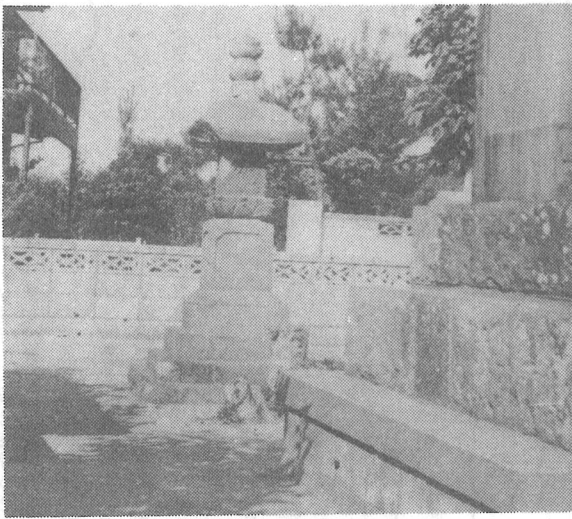
登無上覺位也開眼導師

如意山靈通寺現住法印神快

医王寺現住 有寿

経日若有情能 於此塔一香一華

惟時寛保三癸亥十月吉日 鉄誌



▲ 独立して寺を持てなかつた古川部落の人々が心の寄り所として建立したといわれる経塔

などと刻まれています。この経塔は、その昔から古川の浅間山の裾(中学校裏)に祭られていた阿弥陀堂の境内に建立されたものです。その頃の古川は現在のように整った集落ではなく、浅間山の裾あたりまで人家が分散点に散らばっていました。

後世に残す

知恵の結晶

阿弥陀堂は堂守は持つていませんが、知行主が長倉村に主知行地を持つ殿様であったことなどから独立した寺として認められず、領主の帰依する靈通寺の末寺である医王寺の一部として取扱われる時期が続く、修理改修も思うに任せませんでした。

そうしたなかで、知行主は同じであつても、村がちがひ、祭りや風習も異なる人々の心には、自分達だけの拠所、自分達の力で築いた堂宇に代る可き象徴、そういうものを求める心が動いたことは想像できます。大勢の力を表現し、世間からも認められ、末永く修理などの必要もなく残せるもの、そうした知恵の結晶がこの経塔だったので。

その後、古川の集落は現在のようになり、阿弥陀堂はささやかな祠となつて経塔と共に村中に移されましたが、寺格をもたない悲し

さというのでしようか。いつか参詣の人も途絶えがちになつてついに廃寺のようになってしまひ、経塔は鈴木昇さんの手で現在の場所に祭られることになつた。というものです。

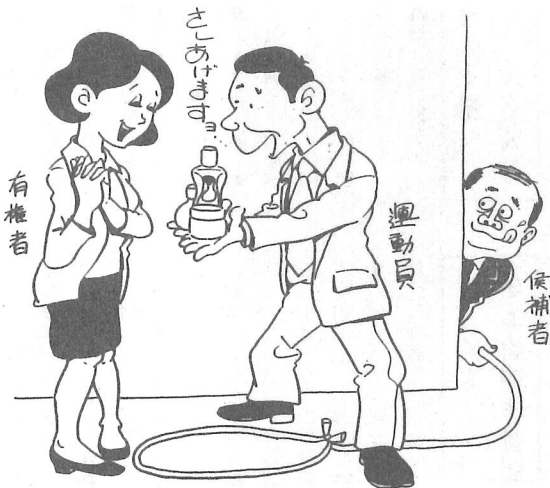
○写真はその経塔ですが、台座には付近の人々のものと思われる戒名がたくさん刻まれています。幕府の方針か、僧侶の自己防衛のためか、自分達の村に独立した寺を持つてなかつた人々が、身内の人々の霊を入魂して拠所としたこの経塔は、事実上は心の中の寺院であり、堂宇であつたものと思ひます。淡い冬の陽ざしを受けて建っている経塔を見つめながら、この前にお詣りをしてる里人の姿を想像していますと、経塔が経過

して来た流転二四〇年の様相は見られず、次第にその佇まいが拡がり立派な山門を備えた堂宇が連想されて来る当時の人々の想いが残っているのかも知れません。(本稿取材に当り、古川の大沢順司さんの談話を参考にさせて頂きました。大沢さんは、農地法改正時に農地委員として活躍された方で、その時に浅間山の裾に阿弥陀堂の敷地が残っていたことなどを発見された、ということですが)尚、この場所はいつか御紹介申し上げたことがありますし、集祭所に入りますと他に経塔はありませんで今度も案内図は省略させて頂きました。

文化財審議会委員

小沢春光氏寄稿

うまい話にやトゲがある……



地方選挙の年です。県知事、町長、県・町議会議員の選挙が次々に実施されます。義理や人情を断ち切り、候補者をよく選んで正しい選挙をしましょう。